

漢譯聖書源流考

一

支那に於ける基督教の傳來は、第七世紀の景教、第十六七世紀のエズイート、及び第十九世紀の新教の三次の歴史を有する。而して聖書の翻譯に至つては、夙に景教の當時に着手されたことが、景教碑文の「翻經書殿」「翻經建寺」等の文字によつて徵證されるが、そは同教とともに滅びて、後世に何等の影響を残さぬ。歴史的に現行漢譯聖書の源流を究めむとする時は、之を、第二次のエズイート教徒にまで遡るを以て足る。元來聖書の邦語譯を、布教上最初のかつ主要の條件として競ひ行つたのは、むしろ新教のことで、舊教はその正統主義の精神から、夙にトラントの公會議で承認された聖イエロニモの拉丁譯を用ひて、輕々しく邦語に譯すのを許さなかつた觀がある。されば、支那に於ける場合に於いても亦、聖書翻譯の事の組織的遂行は、新教によつて成された

と觀られる。然しながら、舊教とても布教の必要上からも、聖書の翻譯に全然着手せずにあり得たのではなく、斷片的の聖語の翻譯はもとより、相應にまとまつた聖書の部分的翻譯も、私に試みられたことは、決して少くない。この漢譯の場合に於いては、その事情同様であるのみならず、更に舊教徒の業績の、特に新教徒の事業の爲に、先駆としての重大なる意義を有したことが考へられる。

II

初期の支那耶蘇會士の間でも、聖書の翻譯は始めは特に企圖せられなかつたのみならず、寧ろ輕々しく之を試みるを避けたかの觀がある。利瑪竇 (Mathaeus Ricci) が辨學遺稿にて、虞淳熙に答へて、未だその事に及ぶ餘裕がないとしたのにも、この意味が汲まれる、同時に、當時支那人の有力な信徒徐光啓の如きは、辨學疏稿中に、聖書翻譯の事を提案したが、こは提案のみに終つた。而も一方に外人宣教師等も、聖書文句の部分的の翻譯は、早くからその教義書中に盛んに試みたので、龐廸我 (Didacus de Pantoja) の七克七書などにも、天主經曰としてその例が少くない。殊に陽瑪諾 (Emmanuel Diaz) の天主降生聖經直解の如きは、當時の教義書中、聖書文句本そのものである。

この稿本は、總括的題簽は之を缺くが、大英博物館文庫目録には、その最初の部分の題名を爲す

四史攸編

を擧げ、歐文の標記また之によつて、

Evangelia quatuor Sinice MSS.

となす。大判の厚い洋紙の表裏に毛筆で記され、字詰は一面六行二十四字、總丁數三百七十八枚（原の數へ方は三百七十六）、赤色の總革表紙に美裝されてゐる。その内容を見ると、上記のごとく

四史攸編耶蘇基利斯督福音之會編

と題して四福音書を編攸して、耶蘇の一生を敍したもの、凡て二十八章を始めとして、

使徒行「傳」(その全譯)

福保祿宗徒與羅瑪輩書 (ろま書全譯)

福保祿與戈林多輩第一章 (こりんと前書全譯)

福保祿使徒與戈林多輩第二書 (こりんと後書全譯)

福保祿與雅辣達輩書 (がらちあ書全譯)

福保祿使徒與厄弗所輩書 (えふへど書全譯)

福保祿使徒與葛理比輩書 (くりうひび書全譯)

福保祿使徒與戈洛所輩書 (こうるじょ書全譯)

福保祿使徒與特撒羅輩第一書 (てさらにけ前書全譯)

福保祿使徒與特撒羅輩第二書 (てさらにけ後書全譯)

福保祿使徒與底末陡第一章 (ちもてお前書全譯)

福保祿使徒與底末陡第二書 (ちもてお後書全譯)

福保祿使徒與的多書 (ちと書全譯)

福保祿使徒與斐肋莫書 (ふひれもん書全譯)

福保祿使徒與赫伯輩書 (くわくしょく書第一章の全譯)

を含む。即ち四福音書の編輯と、使徒行傳及びパウロ書翰のほと全部の全譯で、パウロ書翰中へ
ぶれら書の第二章以下を始め、やこば書からよはね默示錄に至る七書は之を缺く。要するに、新
約全書全部の約六分の五強に當る部分を含んだもので、全譯の全圖がほと完成されて、しかも中
斷に終つた結果を示すものとなる。

この稿本には何等その成立の由來を徵すべく其奥書がないが、本書に附記された次の文字は、そ
の傳來につゝて語る。曰く "This Transcript was made at Canton in 1737 & 1738, by order
of Mr. Hodgson, junr., who says that it has been collated with care, & found very correct.
Given by him to Sir Hans Sloane in Sept. 1739." と。歸れりよつて、本書は臘寫本で、
の原本が 1737 年以前に (而して廣東) 存在してゐたことがわかる。文中にさへた Mr. Hodg-
son は東印度會社の廣東に於ける當時の代表者であり、この人から本書を得た Hans Sloane は博
學の醫家で、かつ蒐集家として有名な人、その所藏が大英博物館の基礎となつた。而して個人の

爲に興味あるのは、かの Kämpfer が日本志の英譯と、その出版の事を爲さしめたのも、當時 Royal Society の President であつた彼の力に俟つ所多かつた一事である。なほこの標記中に、"very correct" として校合の結果を記してあるが、稿本について見ると、相應に誤寫もある。乙は、或はこの稿本がよつた原本そのものに由來するか、或はこの稿本の筆者の誤りか、定かにしがたい。同時に、本書の爲に原本となつたものの譯者、年代また出來た場所等についても、今日知るよしなく、たゞ本書によつて、第十八世紀の初葉に於いて支那天主教徒の間に、新約全書の大部分が漢譯されて存在してゐたことが、徵證される。しかも、そは固より一部信徒間に謄寫して行はれるに止り、未だ必ずしも普及せず、全體としては無論、部分としても刊行されるに至らず、引續いて第十九世紀の初葉の聖書翻譯の事業にまで及んだのである。

今、バウロがこりんと前書中の一節を摘記して、この稿本の文體を例示しよう。

福保祿與戈林多輩第一章

第十三章

一若我語群人群使之言、而無仁、卽猶響銅鑼、又余若能先知、通諸奧儀、與諸學、若有信、致移山、而無仁、卽如無物。^三又若余罄資養貧苦、付身以燃、而無仁、卽無我益。^四夫仁乃忍、乃慈也。

仁弗妬、弗妄行、弗自滿、弗貪大、弗圖私益、弗觸怒、弗思惡、弗樂悖逆、而喜眞理、無不忍、無不信、無不望、無不容也。^五仁永不落、或先知將已、或異音將息、或識將廢、蓋吾輩一分知、一分推度、而得其全時、必所缺將息矣。^六余昔韶齡時、言如童矣、思如童矣、迨余壯、雅事已息矣。^七吾輩今見以鏡以寓、彼則面對面、今知不踰幾分、迨彼時則如自被知而知。^八今信望仁三者並存、而其中最大者仁矣。

第十四章

一汝等從事仁、求風錫、最可求乃先語、^二蓋語異音、非語人、乃語神、而無人通之、惟以風言奧義。單に一例であるが、その文體や用語の一端は伺ひ得べく、之を上記の初期耶蘇會士の教義書書中の譯例に比較する時は、後者の雅正自由なるに比して、むしろ不熟かつ直譯的なることを知るに難くなく、この譯文の、彼等初期耶蘇會士の著作とは別趣に屬するものなることを、想像せしめる。

III

聖書漢譯の組織的試みは、十九世紀の初め、新教の布教開始とともに着手され、支那新教史初

期數十年間に、一應の完成を見たのである。而してその事業は、同時の相獨立せる二つの企圖として始められた。

第一せ、Calcutta に於ける The College of Fort William の館長なる Rev. Claudius Buchanan の計畫を出だした。即ち、一八〇〇年に於ける回カンチ設立とともに、聖書の東洋語翻譯を企て、やがて漢譯と想し、マカオ生れの米人 John Lassar が事に當り、一八〇四年—〇五年の交に着手した。彼數年の後 Serampore に移り、Joshua Marshman と共に共力し、更に支那人の助手を使つて事を繼續し、一八一〇年のまじめ傳の刊行を始めとし、ハシラヤカルニ傳、ヨハネ傳、更に創世記、ヨナ五書、ヤコブ書、詩編、雅歌、ルカ福音書以下からあ書等に及び、終に一八一〇年、新約全部及び舊約大部分を譯アシ。一八一一年に Serampore に足嗣と附した。この譯はちやな、吾人せ未だその書を見るを得なきのやうに附すると思だる。思ベリ Wylie が “The version as might be expected is rude, & to a degree unidiomatic, as most first versions in the original languages necessarily are.” と語した如くなるべく、その流通は廣ひや、亦回じ人が “It has not been circulated to the extent perhaps anticipated by its pious author.” の言の如くである。しかるの創業の功勞は固より没すべしやなべ、その傳統亦決して絶えたの

ではなく、引のゝか改刷も出だし、その後は特にバプティスト派の間に用ゐられ、數次の改訂を加へられた。その改訂の主なゆのせ、まぐ American Baptist Board of Foreign Missions 側から眞教師 Josiah Goddard などを請み、又ヒンヘイ英國の Baptist Mission 側から、回、Thomas Hall Hudson などを請みた。即ち前者は、ヨセフ傳から始めて、又創世記の改譯を試みたが、その新約を完成し出版したのは一八五二年であり、更に Bangkok の Dean が之を繼承して、舊約を改譯した。次に後者せ、St. Mark's Gospel から始めて、一八六七年に新約を完成した。而して、兩者ともにその完成の年と、その成就の地なる Ningpo で之を出版した。

且つ、この Marshman の譯は對して、それがシテ回時と、しかも獨立に企てられたのが、Robert Morrison の譯である。この聖書漢譯史上に主流となつたものであり、やがて、吾人のこども用ひして取扱はむかる所である。

是より先一八〇一年の頃、英本國に於いては支那布教事業の開始とともに、聖書漢譯の必要が一部認められ、Rev. W. Moseley の如く、特に書を著してそれを主唱した人々へあつたが、終に一八〇四年には The British & Foreign Bible Society の建設があり、この漢譯の事も議せられ、その監 Dr. Antonio Montucci が、前記の大英博物館所蔵の稿本を注意し、まぐそれを刊行し、

ようとの事が問題となつたが、多額の費用を要するが爲に、實行を見るに至らなかつた。其後續じて、特に支那布教使を派遣し、同時に聖書翻譯を爲さしめるといふ事が企てられ、一八〇四年の終に Robert Morrison が之に任せられた。彼は一八〇七年九月四日、漸う任地廣東に達するを得、直ちに翻譯の事にかゝつた。まづ數年の準備の後、じよ／＼着手したのは一八一〇年である。かくて、嫉妬や妨害や様々の障礙に戰つて事に當り、一八一三年までは全く獨力、その後新たに迎へた W. Milne と共に力して、或は前の譯を修正し、或は未着手の部分を譯し、終に一八二一年に新舊兩約を完譯した。今この間の經過をやゝ詳しく述べると、即ち Morrison まづ、一八一〇年に使徒行傳を譯了して同年廣東で出版した。つゞいて一八一一年には、るか傳（路加書）を、一八一三年にはがらちあ書（厄拉氏亞書）、やこぼ書（者米士書）、及びペトロ書（彼多羅書）をいづれも同地で譯了し、かくて一八一四年に、始めて、希臘原文からの新約の全譯を出版したのである。即ち耶蘇基利士督我主救者新遺詔書凡て八本で、「但依本書譯出」と標記したのがこれである。引續き舊約に着手し、一八一五年には創世記を譯了、創世歴代傳と題して出版した。Milne はこの頃から共力した。ついで、一八一八年には詩篇（神詩書傳）が譯された。かくて終に一八二三年に、在來の成績に補正を加へたところの聖書全部の完譯が、Morrison & Milne によつて

完成し、マラッカに於いて刊行されたのである。即ち神天聖書凡て廿一本（舊約十七本新約四本）「載舊遺詔書兼新遺詔書、但從本文譯述」とあるのが之である。けだし新遺詔書を希臘原本から譯したこととは、Morrison 單獨の上記の譯本を襲ふた本書として言ふまでもないが、舊遺詔書に於いても、特に希伯來原文から譯したのである。而して、この Morrison & Milne の事業の進行中、あがなつて前述の Marshman の譯が成就されたのであるが、その間互ひに影響しあつたことは、想像されるし、殊に後者がその創世記、出埃及記の改版（一八二三年）に際しては、前者の創世歴代傳、及び出以至比多地傳の援助を得たところ。

而して、特に Milne の共力によつて成就されたこの R. Morrison の漢譯こそは、聖書漢譯史上の基礎的大事業といふべきものであるが、更に Morrison を中心としてその前後の業績との歴史的關係につけては、特に事實に徴して考ふる必要がある。まづ、Morrison の譯の爲に多大の参考となつたものが、大英博物館文庫所藏の稿本であつたことは、彼自らも述べた所である。けだし彼は、着手のために、この稿本の存在を知り、當時ロンドン在留の一支那人をして筆寫せしめ、廣東に持參し、翻譯に際し之を參考した。Milne はその著 Retrospect 中記して “These manuscripts he found of much assistance in his first efforts to communicate Christian

knowledge to the heathen; and he frequently derived assistance from them in course of translation. He deemed it right publicly to acknowledge his obligations to his unknown predecessor, the author of the Ms., which was done in a letter addressed to the Committee of the British & Foreign Bible Society." (vide appendix to 11th Report of B. & F. B. S. page 26) ふづつやる。體いへ、歐洲史家の間ども、Morrison の譯が大英博物館文庫所藏稿本に負へ所の大なるんむせ、しづへ述くられた所であるが、その程度如何にして、吾人は實際兩者を比較して見た結果から、稍精しく述ぐるんとが出來る。まず第一に大英博物館文庫稿本譯の存在する部分に於いては、Morrison は殆んど大體之を襲用して、極めて些細な字句の修正を試みたり、誤寫を改めたりしたに止つてゐる。例へば、前記のこりんと前書（戈林多第一書）第十三章全部及び第十四章初めの箇所について見ても、殆んど稿本の文句を襲用して、その改訂を施した箇所としては、一節の「卽猶響銅鑼」を「余卽响銅鑼」とし、三節の「又若余罄資養貧苦」を「若余給吾物資養貧」とし、四節の「弗妄行」を「弗妄言」とし、「弗貪大」を「弗行不宜」とし、九節の「一分推度」を「一分先語」とし、十一の「吾輩今見以鏡以寓」を「吾輩今不明見以鏡」とせる等に過る。Morrison が最初に譯して刊行した使徒行傳について比較して、著しく改められた

ところは、^{テラソニア}陸斐勒を弟阿非羅に、柔撒冷を耶路撒冷に、依臘爾を以色耳以勒に改めた如き、人名地名の宛字で、その他本文の文句については、稿本の誤寫を正したり、又前例と同じやうな程度で、字句の些かな訂正が試みられてゐるのを見る。使徒行傳以下バウロの諸書翰に至る、已に稿本に於いてまとまつて譯せられたものについては、同様に、Morrison はほゞそれを襲用したのである。しかも、稿本に於いて完全に譯せられなかつた四福音書とか、或は未了のまゝ中絶された希比留書の如きについて見ると、やゝ趣を異にし、Morrison は前の場合に見るか如き襲用の程度をとらなひで、固より稿本を参考としつゝ、新たに譯稿をあこしてゐる。例へば希比留書は、稿本に第一章だけ譯しかけられてゐ、その文章も頗る晦澁であるが、Morrison の同章の譯は、餘程改められてゐる。今兩者を並べ掲げて見よう。

大英博物館文庫稿本。福保祿使徒與赫伯輩書第一章

一昔神以列先知、屢次多般語吾祖者、^二至新于近日、以所設萬有嗣、所以作萬世之子、而語我輩也、^三夫子既爲厥榮之耀、厥體之形、以己德言載萬有、成罪之洗潔、卽坐于威之右、其貴超諸使、以其嗣得名稱、較尊于彼者遠矣、^五蓋從來謂誰使曰、爾係余子、余今日生爾矣哉、又曰余將于之爲父、^六其將于我爲子、又引首子來地球時日、且神之衆使崇拜之、若與群使固曰、俾其使爲風、其後爲火

焰、然謂子曰、神乎、爾座于世世、義權者爾國之權也、爾既好義、且惡惡、是故神爾神、傳爾以樂油、越爾侶輩、又曰、主乎當初爾奠地、而諸天爲爾之工、其後敗爾乃存、其皆舊如衣將敝老、爾益之如套換之、即皆變、爾者乃一是也、爾年永弗缺衰、又謂誰使曰爾座于我右、待余置爾仇爲爾足之橈乎、伊衆豈非、後風奉差役爲將受救嗣之輩乎、

新遺詔書。聖保羅與希比留輩書卷八第一章

^{一節} 神于古時屢次各般以列先知而言祖父輩者、於斯末時以厥子而言我等。夫其立子爲萬物之嗣、又以之其立萬世。^二 又其爲厥築之光、厥自位之真像、扶萬物以厥能之言、既以自家滌去我等之罪、後坐下于在上之威之右、而爲高于神使、如其得比伊等上美之名、蓋其與何一位神使於何時曰、爾乃我子斯日生爾乎、又曰我將替他爲父者他替我將爲子也。^三 又其進厥初生者人世其曰、神之諸神使宜崇拜之矣。^七 論神使輩其曰、厥使輩其爲之神風、厥役輩爲之火之焰。惟論子者其曰、神乎、爾座永遠而在、爾國之權柄乃義之權柄也。^九 爾曾愛義恨惡、故此神即爾神、以歡喜之油傳爾、致在爾侶之上也。^十 又主乎爾當始立地之基、天亦爲爾手之功作。伊必亡廢、汝仍存、伊都漸舊如衣也。^{十一} 又如裳汝將摺之、換之也。惟汝猶然如是、爾年勿廢矣。^{十三} 且其與何一神使、於何時有云、座我右手、待我使爾仇爲爾之脚蹠矣。伊等豈不俱爲神役輩被差服事伊將得爲救之嗣者哉。

その他、稿本四史攸編に收めた四福音書中の引用文句を、Morrison 第四福音書各書の相當箇所に比較しても、同様に異同が比較的に多いことが知られる。

次に Morrison 譯と Morrison & Milne 譯との關係を見ると、それは固より大體同文で、わづかにところごとの字句の修正を試みた。例へばこりんと前書十三章以下の場合について見ても、十三の一の若我語群人群使之言、而無仁、即猶響銅鑼が、我倘以群世人及群神使之言爲語、而無仁、余即响銅鑼となれるが注意されるのみである。なほ、へぶれも書第一章は、兩者全然同一である。

次に舊約書の翻譯に至つては、Morrison は何等前蹤による所なく、殆んど新たに成就したものといふべく、而して、特にこの點に關しては、上記新譯の改訂の事に於ける以上に、Milne の助力が多かつたと考へられる。今、舊約の一例として、創世記卷頭の數節を擧げよう。

創世歷代傳或稱厄尼西書第一章

^{一節} 神當始創造天地也。時地無模且虛。又暗在深之面上。而神之風搖動于水面也。^三 神曰。由得光而即有光者也。^四 且神視光者爲好也。神乃分別光暗也。^五 光者神名之爲日。暗者其名之爲夜。且夕旦爲首日子也。^六 神曰在水之中由得天空致分別于水。且神成天空。而分別。水在天空者之上。于水在天

空之下而卽有之。其空神名之爲天。且夕旦爲次日也。^八

Morrison 譯を中心として、聖書漢譯史初期の三次の業績の關係は、大凡以上の如くである。終りに、聖書翻譯史上問題となる、1111主要語の譯について三者を比較して見ると、第一に God (Theos) と對しては、大英博物館文庫稿本は概ね神と譯し、他の二譯も、之を襲ふた。第二に Spirit (Pneuma) と對しては、大英博物館文庫稿本概ね風(而して Holy spirit に當る場合は聖風、神風等)と譯し、Morrison は之を襲ひ、Morrison & Milne に至り、神、聖神又は靈と譯した。第三に Love (Eros) と對しては、之を名詞として用ゐた場合に於いて、大英博物館文庫稿本、夙に仁と譯し、二譯亦之を襲ふてゐる。

四

創業者の非常な苦心によつて、かく聖書の完譯が出版られて後も、部分的に、又全體的に復版され、又その度ごとに些少の改訂を試みられたが、じよ／＼普及をして見た結果として、なほ譯文が不完全で、支那人をして十分に原意を了解せざるの困難なことがわかつて來、かくて一層精練した文體で、改譯を試みるの必要が感ぜられて來た。而して之を最も痛切に感じたのは、實に

Morrison その人であつた。彼はその事の爲に、其子 J. R. Morrison をして當らしめようとした。この提議に賛して、事業の後援を約したものさ The American Bible Society であつた。而も、偶々 Morrison 死し、J. R. Morrison その後をつゞく政府の譯官となり、爲に到底この事を當る暇ない身となら、かたへんの企ては頓挫したが、やむなく之を代る方法として、當時廣東在住の宣教師 Medhurst を出立し、Gutzlaff 及び Bridgman 福となり、小 Morrison 又補助となり、更に支那人の學者も加せりや、一團體が組織され、改譯が企てられた。かくて彼等によつて數次の改版を見た。即ち一八三七年バタビヤ出版の、救世主耶蘇新遺詔書、一八三八年のシンガポール (^ア) 出版の、救世主耶蘇舊遺詔書、一八〇 (^ア) 年の同地出版の救世主耶蘇新遺詔書 (これは専ら Gutzlaff が更に改訂した) 等が之である。支那に於ける斯の如き形勢にも關らず、ローレンの宣教本部 & Bible Society やは、未だ Morrison 譯の權威を疑ふに至らず、Medhurst が歸國して、その改訂の新約の公認を乞ふた時にも容易に許されなかつたが、この事より縁となり、更に植民地に布教して、親しく在來の漢譯聖書の不完全を経験した S. Dyer の熱心なる主張あり、終に本國支那學者間に Morrison 譯の吟味が企てられ、かくて漸う改譯の必要が承認されるに至つた。しかるに恰かも政治上は、英國の對支關係に一新生面が開けた。即ち一八四三年の南京條

約の結果として、廣東、廈門、寧波、上海、四港の開港、及び香港の讓與といふ事がこれで、その結果として宣教師が布教の範圍も廣まり、その事業も活氣を呈して、この外的の形勢に乗じて、件の改譯の事が組織的に實行されるに至つた。

即ち、まず一八四三年八月二十三日香港に於いて新教宣教師の會合があり、聖書改譯の事が議せられ、新約全書の諸書を、五港の宣教師が分擔して改訂することとした。而してその草案が、ほゞなつたのを俟つて、一八四七年六月二十六日に、各地を代表する委員が上海に集まつた。その人々は Medhurst を會長として Boone, Lowrie, Stronach, Bridgman 等であつた。この會議は一八五〇年六月二十四日まで續く、終に新約の完成を見た。但し委員中 Lowrie は任命後間もなく死亡し、Milne が之を代つた。而して Boone も病弱の爲多く缺席し、かくて他の四人が専ら事に當つたが、そのうち Bridgman は米人、他の三人は英人であつた。この改譯の進行中、初めから特に問題となつたのは Theos, Pneuma の二語に當る譯語で、前者に神を、後者に風、神、靈を宛てた在來の譯語の決定について、様々に論議され、容易に決せず、爲に暫く空文のまゝで進行するの止むを得なかつた。これ即ち、聖書漢譯史上有名な Term question である。最後に、とむかくも Theos に上帝を、Pneuma に神を宛てることに決したが、當初から American

Episcopal Mission の Bishop なる Boone は意見を別にして Theos に神、Pneuma に靈說をとり、他の米人の Bridgman も同意見であり、自ら米人側と英人側と二派に分れたのであつたが、前述の如く Boone は缺席しがちであり、多數なる英人側の意見はまとめて、かくの如き決定を見たのである。かくて、この會議が終了したのが一八五〇年六月二十四日で、同時に印刷に附せられ、まづ四福音書成り、ついで一八五一年に新約全書成り、さやれも上海で刊行された。而してこの改譯を以て、支那に於ける新教の定譯として發布し、“to baptize” の譯語だけを除外例として、その他については一切字句の變改を許さないとした。これ即ち、Delegates Version である。今その譯例として、在來引用し來つた二箇所を擧げよう。

保羅達哥林多人前書第十三章

^{一節} 我如能言諸國方言、與天使之言、而無仁、則猶鳴金敲鼓。雖能先知、探奧、識理、且篤信得以移山、而無仁、則無益。^三 雖罄所有以濟貧、舍身自焚、而無仁、則無益。^四 仁、寬忍、慈愛、不妬、不誇、不衒、^五 不妄行、不爲己、不暴怒、不逆詐、不喜非義、乃喜真理。^六 隱惡、信善、望人之美、忍己之難。^八 惟仁無匱、但言未來事之能將廢、言諸國方言之才將止、知識亦廢。吾今知識未完、先知未全、其全者得、未全者廢。^{十一} 素爲赤子、則所言如赤子、意見亦如赤子、成人則赤子事廢矣。^{十二} 今

我人昏然如隔瑠璃、後所觀乃親晤對、今所知未全、後必深知、如主知我焉。所有於今者、信也、望也、仁也、三者之中、仁爲大。

同書第十四章

一當求仁而慕神賜、最要者惟設教。^二人感於神、以言奧妙、而所言者、諸國方言、則聽者不知、蓋非與人言、乃與上帝言。

而して新約出版後、たゞちに委員は舊約の改譯を企て會合したが、着手後數月にして委員間に意見の差を生じ、二派に分れた。一派は Medhurst, Stromach 及び Milne 等の英國側の委員で、他の一派は Boone, Bridgman 等の亞米利加側の委員である。而して後者は爲に委員を脱退したので、英國側の委員はその改譯をつけ、終に之を完成して一八五四年に上海で刊行した。これ即ち Delegates Version の舊約全書である。今譯例として創世記卷頭の數節を擧げると、

^{一節}太初之時、上帝創造天地。地乃虛曠、淵際晦冥、上帝之神煦育乎水面。^二上帝曰、宜有光、即有光。^三上帝視光爲善、遂判光暗、謂光爲晝、謂暗爲夜、有夕有朝、^四是乃首日。○上帝曰、宜有穹蒼、使上下之水相隔。^五遂作穹蒼、而上下之水、截然中斷。有如此也。^六上帝謂穹蒼爲天、有夕有朝、^七是乃二日。

脱退した亞米利加側の委員は、かねて新約改譯の當時から、Term question に於いて英國側多数の委員と相容れなかつたこととて、直ちに別に聖書全部の改訂に志した。而して Bridgman とともにその事に當つたのは Culbertson である。かくて一八五一年に先づ新約全書の改訂に着手し、一八五九年卒業、一八六一年上海で出版し、續いて一八六三年に舊約全書を終へ、一八六四年に同地で出版した。その譯風は、文體の優雅よりも寧ろ原文に對する忠實を主としたもので、譯語に於いても Theos, Pneuma 等のそれを始めとして、Delegates Version と多少異なる。Eros (名詞形の場合) に對して、在來の譯が仁を用ゐたのに代つて、専ら愛を用ゐたのも注意される。引用二箇所の例を擧げると。

使徒保羅達哥林多人前書第十三章

一我雖能言諸人之方言、及天使之言、而無愛、則如鳴銅響鍔。我雖有預言之能、明諸奧義、與諸知識。且雖有諸信、致能移山、而無愛、則無爲。^二我雖罄凡所有、以濟貧、雖捐軀就焚、而無愛、則不爲我益。^三愛乃寬忍、乃慈悲、愛不如惡、不自誇、不驕傲、不行非禮、不圖己利、不輕怒、不念惡、^四不喜於不義、而喜於真。^五凡事容、凡事信、凡事望、凡事耐。愛永不墮、然預言將廢、方言將息。知識將廢。^六蓋我儕知識未全、預言未全。全者來、則不全者、將廢矣。^七我爲童子時、則言如

童子、識如童子、思如童子。我既成人、則棄童子事矣。^{十二}今我儕由琉璃而見不明焉。迨彼時、則互相覲面。今我知識未全、迨彼時、則將知如主知我然。^{十三}今也、信、望、愛、此三者皆存。其中至大者愛也。

同書第十四章

爾當追於愛、且慕靈賜、最要者預言也。^二夫言方言者、非與人言、乃與神言。蓋雖由靈而言奧義、然無人通之。

次に舊約全書創世記の卷頭を見ると

一元始時。神創造天地。^二地乃虛曠。淵面晦冥。神之靈覆育於水面。^三神曰。宜有光。卽有光焉。神觀光爲善。神遂分光暗。^五神名光者曰晝。暗者曰夜。有夕有朝是乃元日。^六○神曰。水中宜有穹蒼。^八以分上下之水。^七神遂作穹蒼。使穹蒼以上之水。與穹蒼以下之水。截然中斷。於是如有此。神名穹蒼曰天。有夕有朝是乃二日。

而してこの英米兩系統のものが、次々に各地で刊行されて普及するに至つたので、その刊行の間には、些かの字句の修正などは、或は施されたとしても、大體に於いて同文で、要するにこの兩種の譯が、漢譯聖書の代表者として、爾來行はれてゐたのである。勿論それとともに、多少

の別譯も企てられた。就中注意すべきは、上に述べた Lassar 系統のもののほかに、一八六四年北京刊行の露西亞教會の新約の如きであるが、今はこれらについて省略せざるを得ぬ。なほ序でながら、現行日本譯聖書の歴史的由來については、自らこの聖書漢譯史の餘流たる觀を爲し、乙の意味で日本譯聖書の爲に、特に源泉となり模範となつたものは、Delegates Version ではなく、Morrison 譯のたぐひでは固よりなく、實に Bridgman 及び Culbertson の譯であつた。この事は單に上記引用箇所を日本譯に比較して見ることによつて明らかであらう。もしそれ、更に委しく、日本譯聖書が漢譯の直譯以外にいでて、いかなる程度に苦心し、また發揮する所があつたかについては、別箇の問題として研究せられねばならぬ。

五

現行漢譯聖書の出來榮えについては、思ふに論議の點も少なからぬであらう。併し、全く言語の系統を異にした支那の古文體に、新しい基督教の觀念や思想を移植したその事業は、聖書翻譯史上でも、思ふに最も困難なもの一つであつたらう。而してその難事業に打克つて、現行譯の示せる成績の爲には、實に Morrison の事業がその基礎を爲いたこと、而してその Morrison の業

績の爲には、更に無名の天主教徒の學者の私譯が源流として存したるゝは、以上の如くである。

而して以上は、單に結論としては、歐洲學者の研究、例へば Milne の *A retrospect of the first ten years of the protestant mission to China, 1820*, Alexander Wylie の *The Bible in China, 1868* 及び Bible Society が刊行せる *Historical Catalogue of the printed Bibles, 1868.* の支那の翻訳等によつて、寧ろ聖書漢譯史上周知の事實で、吾人がこの小論文の由起とした所は、諸次の翻譯の關係を、殊にその源流に於いて多少とも具體的と明らかにするにあつた。而して、之を譯例に徴して、改訂を重ねるに隨つて、生硬から精練く、粗雑から緻密に漸次完成せられるのを見得るゝことか、又一方にはその第一次の譯例が大體に於いて先駆として遵奉され、若くは参考されしむることを認めざるを得ず、この意味で、新約に於ける大英博物館文庫稿本、同じく又舊約に於ける Morrison and Milne 譯本の功績は、特に推奨せられねばならぬ。それらの譯文や譯語は幾度か改訂せられたる事は後の一連の譯に生きてゐる。恐らく今後の聖書漢譯史上にも、決して全くその生命を失つてアキトとはあるまい。なほ聖書の支那譯には、他に各地方の方言譯や時文譯等があり、それらは思ふに、一八四七年の上海語譯を最初として、その後數多出版せられてゐるが、ここには支那聖書の中幹たる古文譯のみについて專ら記したのである。かつ又、吾人が取扱つた

範圍に於いても、直接に根本資料を使用するを得なかつた部分については、専ら前出の歐洲學者の記述に依らひるを得なかつた。

(昭和1年十月稿)